

病理診断科でできること

がん細胞 正確に見極め



病理診断の流れなどについて説明する羽場病院教授（香川大医学部付属病院で）

病理診断

病院の 実力

香川編 38

今回の「病院の実力」で特集する「病理診断」は、がんかどうかの判断や、治療方針の決定で重要な役割を果たす。その方法や県内の状況などについて、専門医に聞いた。

手術中に判断のケースも

香川大医学部付属病院病理部

羽場 礼次病院教授 46

レントゲンやコンピューター断層撮影法（CT）、内視鏡で腫瘍などの病変が見つかった時に、がんかどうか最終的に見極める手段が病理診断です。病変のある部分の組織を少し切り取って標本を作り、顕微鏡を使って調べます。細胞の並び方には一定のパターンがあって、正常な細胞とがん化した細胞を見比べて判断します。病理医が、がんを正確に診断したうえで、各診療科が手術などの治療計画を立てます。

当院 **病理診断科**で、

患者さんの**治療に**
貢献する、

「**揺るぎない診断力**」を
身につけてみませんか？

日本の診断病理医を取り巻く状況

- **全国的な病理医の不足**：病理専門医 約2000人
- 病理専門医の平均年齢：52歳
- 高齢化社会に伴う悪性疾患の増加 など




- 10年後はさらに危機的な状況に！
- 正確な診断のない状況で治療を試してみたいですか？
治療を受けてみたいですか？



- **長い将来にわたって、多くの患者さんがあなたの病理診断を待っています。**
- **さあ、今からトレーニングを始めましょう！**

病理診断科・病理部の主な業務

- ① **生検組織診**（消化管内視鏡、腹腔鏡、胸腔鏡、膀胱鏡、気管支鏡、皮膚、子宮腔部・内膜生検、骨髄・リンパ節・乳腺・腎臓・肝臓などの針生検）
 - ② **細胞診**（子宮腔部・内膜擦過、気管支擦過、喀痰、尿、体腔液、甲状腺・乳腺・リンパ節・超音波内視鏡下などの穿刺吸引細胞診）
 - ③ **手術病変の組織診断**（細胞診の併用）
 - ④ **術中迅速診断**（組織診、細胞診）
 - ⑤ **臨床・病理合同カンファレンス**
 - ⑥ **病理解剖および臨床病理検討会（CPC）**
- 

熱い指導



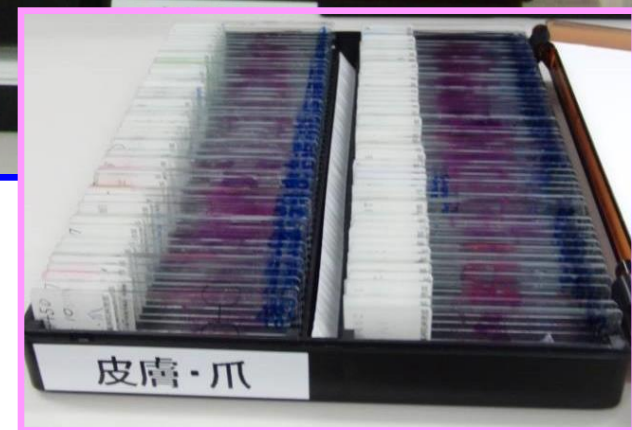
組織診、細胞診および術中迅速診断の風景

病理専門医や若手病理医、細胞検査士、研修医
が互いに納得するまで議論。

充実の典型症例学習セット



箱の中にはプレパラートがギッシリ ⇒



カンファレンス スケジュール

	月	火	水	木	金
第1週	婦人科・病理 17:30 ~ 脳外科・病理 19:30 ~		香川臨床 腎組織 19:00~	腎移植 17:30~	
第2週	呼吸器疾患 18:30 ~		口腔・病理 19:00 ~		
第3週	泌尿器・病理 17:30 ~		消化器疾患 19:00 ~		卒後臨床研修 CPC 19:00 ~
第4週	呼吸器疾患 18:30 ~				



専門医の取得

診断病理医に必要な専門医資格

- **死体解剖資格(厚生労働省)**
病理研修開始後**2~3年**程度で取得可能。
- **病理専門医(日本病理学会)**
病理研修開始後**約3年**程度で取得可能。
- **細胞診専門医(日本臨床細胞学会)**
病理研修開始後**約4年**程度で取得可能。



研修モデルケース

医師	病理	資格や研修状況
1年		初期臨床研修
2年	1年	初期臨床研修 (病理診断科は選択)
3年	2年	入局(大学院入学)
4年	3年	
5年	4年	死体解剖資格取得
6年	5年	病理専門医取得 (医学博士取得)
7年	6年	細胞診専門医取得
8年	7年	関連病院で病理医として勤務 留学 subspeciality取得

初期臨床研修制度開始後 病理診断科・病理部に入局した 先生の例

医師	病理	資格や研修状況
1年		初期臨床研修
2年		初期臨床研修 (市中病院で2か月病理選択)
3年	1年	入局・大学院入学
4年	2年	
5年	3年	死体解剖資格取得
6年	4年	
7年	5年	病理専門医取得 細胞診専門医取得
8年	6年	医学博士取得

研修終了後の進路

全国的に(都会でも地方でも)診断病理医は不足しています。研修終了後は、当医局関連の総合病院や当大学での常勤職員としての採用だけでなく、出身地の病院や、全国の有名病院での採用もあります。全国から多数のオファーがあります。特定の臓器に興味がある場合には、国内外の専門家との交流や留学などを経て、その道を究めることも可能です。(因みに科長のsubspecialityは呼吸器、

副科長は腎臓、医局長は皮膚とリンパ腫です。)